

## 平成 27 年度 学校評価実施報告書

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
学校経営	<p>① NetCommons を活用した学校 WEB ページの運用により, 学校の教育活動を保護者や地域に積極的に発信することができた。更新回数は 10 ヶ月で約 110 回と, 3 日に 1 回のペースでの更新となっている。1 日の平均アクセス数は約 490 回である。</p> <p>しかし, 保護者アンケートの結果では, 設問「保護者への情報提供が適切になされている」に対する肯定的な評価の割合が, 昨年度の 83%から 73.6%に下がってしまった。</p> <p>② 保護者宛のメール一斉送信システムを使い, 生徒に文書を配付したことを通知するなどして活用し, 一定の評価を得ている。</p>	<p>① 現在, 一部の職員によって行われている学校 WEB ページの更新を, より組織的に行えるようにする。</p> <p>生徒の活動の様子だけでなく, 教員や保護者の取組を WEB ページや学校便りを通して積極的に広報する。</p> <p>② 情報端末の設定の問題から, メールが届かない保護者が相当数おり課題となっている。個々の端末の設定変更には専門的な知識が必要なため, 学校がヘルプデスク的な役割を果たすにも限界があり解決策を模索している。</p>	<p>① 学校 WEB ページの更新に力を入れていることは評価できるが, WEB ページを保護者はどのくらい見ているのか。ほとんど閲覧しないというのでは, いくら更新に力を注いでも有効な情報提供の手段とはなりえないであろう。特に重要な内容の通知等には, 別の手段を考えるべきである。</p>	<p>① 学校が発する文書等を WEB ページからもダウンロードできることがわかれば, WEB ページの閲覧促進にもつながる。また, 部活動の活動記録・実績や進路行事, 進学補習, 教員の授業力向上に向けた取組などを総括した学校便りを年に 2 回程度発行することも検討する。更に, 確実に保護者の手に届けたい配付物は郵送することも検討する。</p> <p>WEB ページの更新をより多くの職員によって組織的に行う。特に, 初任者には WEB ページ更新を研修内容として位置付ける。</p>
学習指導	<p>① 生徒アンケートの結果では, 設問に対する肯定的な評価の割合が, 「わかりやすい授業が展開されている」では 69.8% (昨年 68.7%), 「私は授業内容が理解できている」では 64.1% (昨年 61.8%) と昨年より僅かに向上した。</p> <p>一方で, 今年度初めて実施した生活実態調査では, 家庭学習時間 0 分の生徒が 52%, 1 か月に本を 1 冊も読まない生徒が 66%もいることが判明した。</p> <p>② 年に 2 回の授業研究週間を設定し, 教員相互の授業参観を推進すると共に, 期間終了後に教科ごとに研究協議を実施し, 授業力向上に取り組んだ。また, 若手教員チームでは, 各自の研究授業を撮影した動画を用いて研究協議を行うなど, 授業力向上に向けた取組に工夫が見られた。</p> <p>しかし, 保護者アンケートの結果では, 設問「教員の研究授業や授業研究週間の取組を評価する」に対する肯定的な評価の割合が, 83.1% (昨年 87.3%) と下がってしまった。</p> <p>③ 観点別評価についての理解を深めるため, 教務主任が「観点別評価通信」を発行すると共に, 中学校教諭を講師に招き職員研修を実施した。</p>	<p>① 学習習慣の確立については, 喫緊の課題であり, 学校全体で組織的に取り組むための検討を進める必要がある。英語検定や漢字検定の受験を動機づけとして, 生徒の学習習慣の確立と学力の向上を図りたい。</p> <p>また, ICT 機器の購入により, 視聴覚教材等を活用したわかりやすい授業展開を推進するための環境整備に努める。</p> <p>さらに, 読書活動を学校の特色とするような取組を推進する。</p> <p>すべての教育活動の中で, 小さな成功体験を積み重ねることが自己有用感を高めることにつながる。そのためにも, 芸術作品展, 読書感想文コンクール等への応募を積極的に行う。</p> <p>② 他の高校や異校種での授業参観を積極的に進める。また, 若手教員チームによる校内研究授業を軸にして, 授業力の向上に努める。</p> <p>③ 主体的・協動的な学習形態を取り入れた授業展開についての理解を深めるための職員研修を実施する。</p>	<p>① 家庭学習時間 0 分の生徒の割合が 52%もいることは見過ごせない事実であり, 学習習慣の確立が喫緊の課題である。宿題を出せば自ずと家庭学習時間は増えるであろう。</p> <p>家庭学習時間の減少は, スマートフォン普及の影響もあるのではないかと。</p>	<p>① 学習習慣の確立に向けた取組を打ち出せるよう検討する。「読書活動の推進」や「英語検定全員受検」など, 職員の中から具体的な提案が出ているので, 本校の特色ある取組となるよう検討を深めていく。</p> <p>情報モラル教育の中で, 情報端末の節度ある使用についても指導する。</p>
生活指導	<p>① 通学路の交通危険個所に, 一日おきに教員が立ち番指導に当たった。自転車の傘差し運転については, 違反者に対する指導を強化し, 段階的に特別指導を行うこととした。しかし, 通学時の自転車運転マナーについては, 近隣住民や自動車運転者から頻繁に苦情が入り, なお一層の注意喚起と指導が必要である。</p> <p>生徒アンケートの結果における肯定的な評価の割合は, 設問「本校では基本的生活習慣の指導が適切になされている」が 77.1%, 設問「本校では服装・頭髪指導が適切になされている」が 80.3%で, 昨年度と大きな変化はない。</p> <p>③ 今年度初めて生活実態調査を実施し, 生活習慣, 学習習慣, いじめ等について実態調査を行った。</p>	<p>① 年度初めの時期に, LHR の時間等で交通ルールと自転車運転マナーの順守について指導する。また, 教師から生徒への一方的な指導には限界があるため, 生徒会本部や風紀委員会を中心としたマナーアップ活動を展開する。</p> <p>③ 生活実態調査から, 生徒の生活習慣等の特徴を見出すことができた。次年度から年 2 回実施し, 生徒の指導に活かしたい。また, このアンケートを, いじめの実態調査としても活用し, いじめの早期発見・未然防止に努める。</p>	<p>① 登下校の様子を見ていて, 自転車の乗車マナーの悪さが気になる。よく指導してほしい。</p> <p>生徒の自律を促す運動を生徒会で取り組んでは如何か。</p>	<p>① 生徒の意識改革を目指した効果的な交通安全指導を展開する。ミニ集会で出た意見を参考に, 生徒会役員と柏警察が連携したマナーアップ運動を継続すると共に, 交通安全標語の考案やポスター制作などを通して意識改革を図りたい。</p>

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
キャリア教育	<p>① 生徒の多様な進路希望に対応するため、総合的な学習の時間やLHRを活用し、分野別進路説明会等の各種ガイダンスを多く実施した。特に、1年生対象の上級学校見学は、生徒・保護者から好評である。 生徒アンケートの結果による、設問「本校では進路指導が適切になされている」に対する肯定的な評価の割合は75.8%で、昨年度との大きな変化はない。</p> <p>② 放課後、長期休業中に進学希望者対象の補習が多数実施された。保護者アンケートの結果による、設問「全学年進学補習等の取組を評価する」に対する肯定的な評価の割合は84.7%で、過去2年間と変化はない。しかし、進学補習を実施することが生徒・保護者に伝わっていなかったり、部活動加入者が参加できないという意見がある。</p>	<p>① 各学年1単位の総合的な学習の時間をキャリア教育に充て、発達段階に応じた進路ガイダンスを計画的に展開している。生徒の多様な進路志向に対応するため、上級学校見学等のガイダンス機能の更なる充実に努める。 進路指導に関する知識・指導力は、経験値による職員間の格差が大きい。特に、進路指導に関する経験の浅い若手教員の指導力向上のため、校内研修を充実させる。 生徒の健全な職業観の醸成や進路意識の向上のためには、インターンシップ等の体験的な活動が効果的である。インターンシップの推進を進路指導の中に組み込みたい。</p> <p>② 進学補習を充実させ、生徒を鍛え、第一志望の学校に合格できる学力を身に付けさせる。</p>	<p>① 生徒アンケートの結果で、設問「私は本校に入学してよかった」に対する肯定的回答の割合が年々下がっているのが心配である。生徒や保護者が望むことの第一は進路実現である。進路指導の更なる充実を期待する。</p>	<p>① 進路ガイダンスや進学補習を充実させ、生徒に「第一志望は譲らない」という気持ちを持たせたい。 研修を積み、教員個々の指導力の向上を目指す。 インターンシップ等の体験的な活動の充実を図る。また、インターンシップ体験者の学習成績等の追跡調査を行い、インターンシップの体験がもたらす効果について検証したい。</p>
特別活動等	<p>① 生徒アンケートの結果では、設問「本校は文化祭や体育祭などの学校行事が盛んである」に対する肯定的な評価の割合が84.4%で、高い水準を維持しているが、昨年より5ポイント下がった。 しかし、生徒会役員選挙では、すべての役職で競争選挙となるなど、生徒会活動に対する生徒のやる気を感じ取ることができた。</p> <p>② 生活実態調査の結果では、部活動加入率は64.5%（1学年73.8%、2学年56.1%、3学年63.5%）であった。一方、アルバイトをしている生徒の割合は37.7%で、部活動に熱心に取り組む生徒とアルバイトに精を出す生徒に二極化する傾向が顕著である。</p>	<p>① アンケートの結果からわかるように、文化祭や体育祭で充実感や達成感を味わっている生徒が多い。この満足度を高い水準で維持すると共に、完成度と質の向上を目指す。また、生徒が熱心に行事に取り組む姿を保護者はもちろん、地域住民の方々や中学校の先生方に見てもらえるよう、広報活動に力を入れる。</p> <p>② 生活実態調査のクロス集計の結果から、部活動に加入している生徒は遅刻が少ないなど、基本的な生活習慣の身に付いている生徒が多い。また、成績上位者にも部活動加入者が多く含まれており、就職や大学の指定校推薦でも、部活動加入者が強みを発揮している。こうした状況を新入生や保護者に説明し、部活動の加入を強く勧める。</p>	<p>① 文化祭・体育祭等の学校行事については、生徒の活気ある取組が見られるが、教員の評価が低いことから、内容面の充実が望まれる。</p>	<p>① 文化祭の来場者は、他校高校生、中学生、保護者が大部分である。地域住民の方や子どもたち、近隣施設の方々にも来場いただき、楽しんでもらえるよう広報と質の向上に努める。</p>
地域連携	<p>① 開かれた学校づくり委員会の取組として、「広報柏陵」を近隣世帯に配布した。 開かれた学校づくり委員会の委員の仲介で、美術部と生徒会役員が南部クリーンセンターでのペットボトルイルミネーションを製作するなど、地域における生徒の活躍の場が広がった。</p> <p>② 地域連携ミニ集会の案内を近隣町会長さん宛てに送付し、多くの参加者を得ることができた。また、開かれた学校づくり委員会の委員、近隣住民、生徒の代表、教員によって構成されたグループで話し合うことで、多様な観点からの意見交換が行われた。</p>	<p>① 「広報柏陵」の近隣世帯への配布を継続する。 また、生徒の作成した防犯ポスターを自治会の掲示板に貼ってもらうなどの新たな取組も検討する。 生徒会役員や部活動の生徒による近隣小中学校との交流を深める。</p> <p>② 地域連携ミニ集会の案内の送付先を更に広げる。新たな企画の創出と内容の充実に努め、参加者の満足感が得られるような集会にする。</p>	<p>① 開かれた学校づくり委員会の取組である近隣世帯への「広報柏陵」の配布は、地域の方が本校を知るための良い機会である。ぜひ継続してほしい。 地域の方々から理解を得て、良い関係を築くことが大切である。そのためにも地域貢献という視点での取組を推進してほしい。</p>	<p>① 地域や近隣の学校との良好な関係を維持しつつ、開かれた学校づくりの推進にさらに努力する。 生徒会や部活動、ホームルーム活動の取組として、通学路清掃などのボランティア活動を実施する。</p>